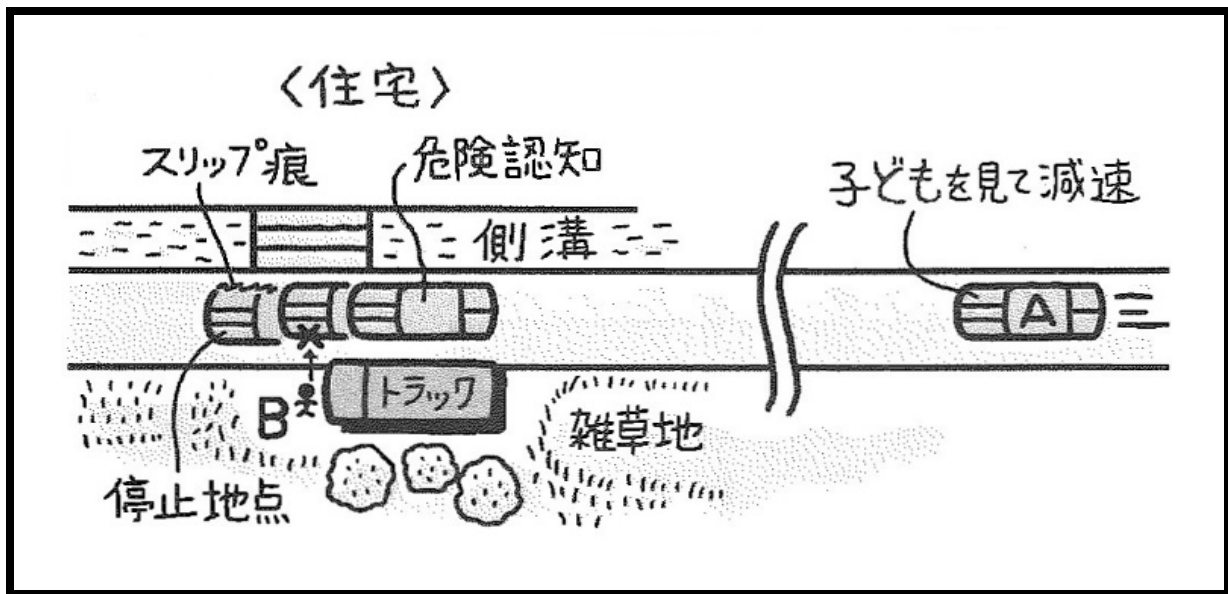


■事故の概況



事故類型：人対車両
発生日時：夕方 明るい
当事者A：普通乗用車 40歳代
当事者B：歩行者 幼児 男性

■ 事故の概要

Aは、道路幅員約3mの道路を進行中、数10m先の左側に駐車しているトラックのそばに幼児2名と大人1名がいるのを見えました。

A車からトラックが停まっているあたりまで、道路の左側は背の低い雑草が生い茂った空き地でしたが、トラックが停まっている地点の道路右側には人家がありました。

Aは、子どもたちがその地点を行ったり来たりしており、飛び出してくるかもしれないと考えて時速約20kmに減速してトラックに接近したところ、Aの視界からは子どもたちの姿が消えていました。その直後のこと、突然Bがトラックの陰から飛び出してきて、A車の側面に衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aは、子どもたちがいることを発見し減速して進行しましたが、トラックの陰から突然飛び出したBを避けることは出来ませんでした。Aは「飛び出すかもしれない」と考えたのですから、トラックの横を通過する際に「一時停止をする」とか「徐行して、軽くクラクションを鳴らすことによって親の注意を喚起する」などの方法も事故を避ける手段としては、あったのではないのでしょうか。

また、停車していたトラックは、Bの父親が停めたもので、父親は動きまわる子どもたちに「危ないから、走りまわるな」と注意していた矢先にこのような事故となってしまったとのことでした。

事故の原因は物陰から突然飛び出したBにもありますが、運転者である父親は子どもが道路や車の陰で遊びまわることの危険を予測できるのですから、言葉だけでなく道路で遊ばせること自体をやめさせるべきでした。